学校番号	２０５

令和８年度　地理歴史科

教科	地歴	科目	日本史演習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「詳説日本史」　（山川出版）						
副教材等	「詳録新日本史史料集成」（第一学習社）・「最新日本史図表」（第一学習社） 「ポテンシャル日本史　基礎力養成編」（さんぺい出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史総合、日本史探究にて培った知識をさらに発展させ、歴史的事象の原因と結果のつながりを意識する視点を持つ。
・歴史を背景とした世界の国の諸事情を踏まえ、現在の日本の在り方や世界との関わりを考える。
・問題演習を通じて理解を深める。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】・日本の歴史を地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解する。
【思考力、判断力、表現力等】・諸資料に親しみ、歴史的思考力を培う。
【学びに向かう力、人間性等】・現在の日本の有りようを意識し主体的に行動する市民としての自覚と資質を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	我が国の歴史についての基本的な事柄を，国際環境と現代社会に関連付けて総合的に理解し，その知識を身に付けている。	我が国の歴史の展開から課題を見いだし，国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め，その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究し，国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する市民としての責任を果たそうとする。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	近代国家の成立	・明治維新と富国強兵 ・立憲国家 ・日清・日露戦争と国際関係 ・近代産業の発展 ・近代文化の発達	a: 近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。 b: 現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 c:近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究する。	定期考査 ノート提出	定期考査 ノート提出	授業態度 発問評価 課題提出 ノート提出
2学期	二つの世界大戦とアジア　占領下の日本	・第一次世界大戦と日本 ・ワシントン体制 ・市民生活の変容と大衆文化 ・恐慌の時代 ・軍部の台頭 ・第二次世界大戦	a: 第一次世界大戦が日本に及ぼした影響、産業の発展の背景と影響、国際社会やアジア諸国との関連、政治経済体制の変化、戦争の推移と国民生活への影響などに着目し、資料から情報を読み取り、その展開について理解する。 b: 大戦中の日本の動向を踏まえ、中国や朝鮮などが日本の対外政策をどのように受け止めたのか、大戦後に国民の権利の拡大がもたらされたこと、ワシントン体制下の協調外交、満州事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出、戦争が米英などとも拡大した理由などを多面的、多角的に考察し、表現している。 c:対外戦争がもたらした国内、国際的な変化、アジア太平洋地域における国際協調体制、満州事変や国家改造運動の展開、日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、 主体的に課題を追究しようとしている。	定期考査 ノート提出	定期考査 ノート提出	授業態度 発問評価 課題提出 ノート提出

3学期	高度成長の時代　激動する世界と日本	・占領と改革 ・冷戦の開始と講和 ・55年体制 ・経済復興から高度経済成長へ ・経済大国への道 ・冷戦の終結と日本 ・日本社会の変容	a:占領政策の転換によるにほんの政治や経済の変化保守合同から高度経済成長、冷戦、ドルショックや石油危機、冷戦終結後、５５年体制の崩壊した政治状況などに関わる諸資料から情報を読み取り、その展開について理解している。 b:戦後の占領政策、日ソ共同宣言をはじめとする国交交渉や外交事案、日本の経済復興や高度成長、冷戦終結後の日本が抱える課題などについて多面的、多角的に考察し、表現している。 c:現代の日本との関連性を意識し、占領政策の特色や５５年体制の歴史的意義、高度経済成長、連戦終結後の日本の役割などについて、主体的に課題を追究しようとしている。	定期考査 ノート提出	定期考査 ノート提出	授業態度 発問評価 課題提出 ノート提出

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度